



JICA(独立行政法人国際協力機構)の中央/地方政府において防災行政を担当する海外の行政官と研究官9名が立山砂防事務所管内を視察しました。この視察は「中央アジア・コーカサス総合防災」の一環として中央アジア・コーカサスの中央・地方政府の防災担当者を対象に実施された研修であり、立山カルデラ砂防博物館や本宮砂防堰堤などを視察し、立山の砂防についての講義も受講されました。

研修は6月15日～7月31日まで日本の各地で実施され、この研修において日本での経験や事例を踏まえ、防災に関する基本的な知見を共有するとともに、地方防災計画の策定演習を通じて、参加者が自国の災害リスクの適切な評価に基づく防災計画策定手法の理解を深め、終了後に自国において地方防災計画の策定を促進することを目的としています。

◆持続性と強靱性確保のための防災研修◆ (中央アジア・コーカサス)

実施日：令和8年7月16日(木) 9:30～12:00

参加者：アルメニア、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、アゼルバイジャン(6カ国)の中央/地方政府において防災行政を担当する行政官・研究官 9名

視察箇所：立山カルデラ砂防博物館、立山砂防事務所本宮砂防堰堤、津之浦下流砂防堰堤、称名川床固群



立山砂防事務所での講義の様子(講師：飯田調査課長)

立山カルデラ砂防博物館



本宮砂防堰堤



津之浦下流砂防堰堤



称名川床固群



独立行政法人国際協力機構(JICA)とは

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、1974年に設立され、政府開発援助(ODA)プログラムのもとで日本政府による技術協力を実施しています。現在、JICAは援助対象国からの研修員受入、日本人専門家の派遣、機材供与、各種調査、青年海外協力隊の派遣等を実施しています。研修員受入事業は、援助対象国それぞれの国で必要とされている技術、知識を移転するもので、JICAで最も基本的な人的資源開発事業の一つとして位置づけられ、研修事業を通じて国の発展の担い手となる人材の育成に貢献することを目指しています。